

日本語, スウェーデン語とハンガリー語における現在パーフェクトの比較 — 「現在との関連性」と結果性の相関関係 —

トート マルトン (大阪大学大学院生)

1. はじめに

○英語やスウェーデン語における現在完了形(以下現在パーフェクト形)の研究は盛んだが,当形式を持つ言語と持たない言語の比較研究は少ない. 当形式を持たない日本語とハンガリー語も(以下ハン語)もスウェーデン語(以下スウェ語)の現在パーフェクト形が表す「現在との関連性」(以下 CR)表しうる. (1a-c)を参照されたい.

- (1a) Brevet har kommit. (スウェ語)
letter-DEFINITE has come
- (1b) 手紙が届いた.
- (1c) Megjött a levél. (ハン語)
PREFIX-come-PAST the letter

- ・問い I) なぜ過去形として考えられている日本語のタ形とハン語の過去形はスウェ語の現在パーフェクト形と同様のことを表しうるのか
II) これはどのような場合に可能なのか
III) そもそも現在パーフェクト形が表すのは何なのか
- ・目的 I) 現在パーフェクト形が表す CR を定義し, その判断基準を提案し, 評価すること
II) 3言語が CR をどのように表しうるのかを分析し, CR は事象の結果とどれほど関連しているのかを分析すること

2. 理論的背景

○現在パーフェクト形の4用法. Comrie (1976:56-61)を参照.

表 1: 現在パーフェクト形の4用法

分類	例文
1. 結果のパーフェクト (結果 P)	John has arrived. 「ジョンが着いた」
2. 経験のパーフェクト (経験 P)	Bill has been to America. 「ビルはアメリカに行ったことがある」
3. 存続場面のパーフェクト (存続 P)	We've lived here for ten years. 「ここに住んでいて,10 年間になる」
4. 近接過去のパーフェクト (近接 P)	I have recently learned that the match is to be postponed. 「試合が延期されることを最近知った」

○現在パーフェクト形の特徴

・現在パーフェクト形(2a)を過去形(2b)と比較すれば,その違いが見てとれる

- (2a) I have lost my knife. (Comrie 1976:52)
「ナイフをなくした(今手元にない)」
- (2b) I lost my knife. (Comrie 1976:52)
「(その時)ナイフをなくした」

→ (2a)は発話時点(以下 ST)に関連性があるが, (2b)は関連性がない

○パーフェクトの定義

・工藤(1995:99)によれば「ある設定された時点において,それよりも前に実現した運動がひきつづき関わり,効力を持っていること」である.

→ 設定された時点とは発話時点である.

・現在パーフェクト形は出来事時点(event time = 以下 ET)と発話時点(speech time = 以下 ST)の関係を捉える. 出来事が発生したことが発話時点で何らかの意味で重要性がある.

○本発表の CR の定義

・CR は状態であり,Target State (以下 TS, または Perfect State (以下 PS)である.

→ Parsons (1990:234-235)「ボールを屋根の上に投げた」では

PS: 「ボールを投げたという出来事が発生した」という状態が続き、この状態は終わることがない

TS: 「ボールは屋根の上にある」という(一時的な)結果状態

・表1では結果PはTSを表し、経験Pと近接PはPSを表す。

・存続Pは他のカテゴリと異なり、完成部分がなく、STで事象がまだ継続していることを表す。そのため、本発表ではPSでもTSでも表さないという立場を取る。

→ 存続Pが表す状態は Persistent State (存続状態) であると見なす。

→ また、存続状態は「実現して、設定された時点で効力を持つ」という意味ではなく、STでまだ継続しているため、CRを表さないと見なす。

3. 資料と手法

3.1 資料

表 2: 本発表で使用したコーパス

言語	コーパス	選択したサブコーパス	検索の仕方
スウェーデン語	Språkbanken	「Diskussionsforum」 フォーラム	検索の仕方: 「har」+ 完了形 例: har anlänt 「着いた」
日本語	BCCWJ: Balanced Corpus of Contemporary Written Japanese	“Yahoo ブログ” (2008) ブログ	[動詞 + た・ました]. 例: 壊れた・壊れました
ハンガリー語	Magyar Nemzeti Szövegtár (MNSZ)	「Személyes」(「個人 的」), フォーラム	動詞, 過去形の設定. 例: megérkezett 「着いた」

○ コーパスの選択: 近代的かつ日常的な言葉遣いが分析できる。また、STに関連性のある話もない話も出現すると予測される。

- 1) 表 2 が示しているコーパスで、スウェーデン語の現在パーフェクト形、日本語のタ形とハンガリー語の過去形を検索する。表 3 に対象となる動詞が示されている。
- 2) 表 4 の基準にしたがい、CR を判断する。
- 3) TS と PS による件数の頻度を表で示す。分類が難しい例を「他」として分類する。

表 3: 対象となる動詞

	スウェーデン語	日本語	ハンガリー語	頻度
結果性が高い動詞	1 Har gått sönder	壊れた	Tönkrement	10
	2 Har anlänt	着いた	Megérkezett	10
	3 Har försvunnit	消えた	Eltűnt	10
	4 Har stannat	止まった	Megállt	10
結果性が低い動詞	1 Har sprungit	走った	Futott	10
	2 Har sett	見た	Nézett	10
	3 Har blinkat	光った	Villant	4
	4 Har ringt	鳴った	Csörgött	7
	5 Har knackat	叩いた	Kopogtatott	4
	6 Har ropat	叫んだ	Kiáltott	5

○ 動詞の選択: Rothstein (2008:157)を参照した。結果性が高い動詞とは結果状態を表しうる到達動詞である。

結果性が低い動詞とは結果状態を基本的には表さない行為動詞と単一相動詞(semelfactives)である。

→ 結果性が低い動詞の件数が少なかったため、動詞の数を増やし、結果性が高い動詞と低い動詞の件数が各言語でそれぞれ 40 件になるように設定した。

→ 疑問文、従属節や否定文を対象外としたため、日本語とハンガリー語では少数の例に絞ることができた。スウェーデン語は妥当な例がより多かったが、可能な限りフォーラムの様々なトピックから例を抽出した。

→ 分け方の理由: Dahl & Hedin (2000)によれば、結果継続を表す事象の方が CR を表しやすい。

表 4: CR の基準

基準	CR		CR ではない
	Target State	Perfect State	Persistent State
1. 事象が完成する(完了的)	○	○	×

である)			
2. 事象が時間副詞と共に起せず,出来事時点が不特定である. 副詞と共に起する場合でも,過去を表す副詞であってはならない(例:昨日)	○	○	○
3. 前後の文脈は出来事時点が過去に設定されていることを示さない	○	○	○
4. 事象には結果性が高い動詞が出現する	○	○/×	×
5. 文脈は,事象に明らかな結果があり,その結果がSTにおいて続くことを示す	○	×	×

○ 表4の基準は先行研究(Comrie 1976 や Declerck 1991 など)を参照した。
→ 現在パーフェクトの時間設定は過去ではなく, 現在(ST)である (Declerck 1991:326-327).

4. 結果

表 5: 3言語の結果

動詞の分類	スウェーデン語			日本語			ハンガリー語		
	Target State	Perfect State	他	Target State	Perfect State	他	Target State	Perfect State	他
結果性が高い動詞	38.8%	6.2%	5%	20%	0%	30%	16.25%	0%	33.75%
結果性が低い動詞	-	35%	15%	-	8.7%	41.3%	-	11.25%	38.75%
合計	38.8%	41.2%	20%	20%	8.7%	71.3%	16.25%	11.25%	72.5%

○ 「他」とは
・スウェーデン語の場合は存続状態の例が多く,いわゆる「歴史的現在」の例もいくつかあった。また,TS・PSなのか,存続状態・歴史的現在かどうか不明な例もあった。
・日本語の「他」の67.5%が単純過去形であり,2.5%はTS・PSの間で曖昧であった。
・ハンガリー語の「他」の68.75%が単純過去形であり,3.75%はTS・PSの間で曖昧であった。

○ 具体例

→ a = スウェーデン語 b = 日本語 c = ハンガリー語

・ Target State

- (3a) Min vigselring **har gått sönder**... så tänkte slå stort med att köpa en ny ..
my marriage.ring has gone apart... so thought hit big with to buy a new...
「結婚指輪が壊れてしまったから,すごいことをして新しいのを買おうと思っている」
- (3b) この暑い中,キッチンの換気扇レンジフードが**壊れました**。これから買いに行つて来ます。やれやれ。
- (3c) Nekem meg szintén **eltűnt** a beírásom a topikkal együtt,
me-DAT and similarly disappear-PAST the comment-POSS the topic-SOC together,
de megismétlem, hogy: [...]
but repeat, that: [...]
「私もトピックごとにコメントが**消えてしまった**が,再び書く。つまり ...」

・ Perfect State

- (4a) Jag **har sett** dokumentärer på tv om de rika damerna i USA som håller galor o
I have seen documentaries on TV about the rich ladies in USA who keep galas and
middagar mm och skänker allt till välgörenhet... FANTASTISKT!
dinners etc and donate everything to charity... FANTASTIC!
「催し物や宴会などを主催して,すべて寄付するアメリカのお金持ちの女性についてのドキュメンタリーをテレビで**見た**。素晴らしい!」
- (4b) 今日も**走った**よ。多分,毎日走ると思う。
- (4c) **Csörgött** az óráml!) Vége az időmnek! A holnapi viszontlátást!
ring-PAST the clock-POSS! End the time-POSS! The yesterday-POSS again-see
「目覚まし時計が**鳴った**!私の時間はもう終わりだ。また明日!」

・他

- (5a) Ja det är jobbigt det **har ringt** folk från över en veckas tid till oss suck men men
yes it is annoying it has called people from over one week's time to oss sigh but but
sen är det bara att skita i att svara Gud så trött jag är i dag [...]
then is it only to shit in to reply God so tired I am today [...]
「たしかに迷惑だ,一週間以上前から電話がかかってくる。まあ無視するしかないな。今日はもうくたびれだ。」
- (5b) スタッフルームで仕事をしていたら,電話が鳴った。その時,私が一番電話の近くにいたから私が取った。
- (5c) Tegnap **megállt** egy busz az ablakom előtt. Hogy milyen jó pasi volt vele!
yesterday stop-PAST a bus the window-POSS before. that how good guy was with.it!
「昨日,私の窓の外でバスが止まった。とても素敵な男が乗っていた!」

5. 考察

○ 判断基準

・表4の判断基準でほとんどの文を分類できた点から,これはCRの判断基準として妥当であると考えられる。しかし,文脈の影響が大きく,どのような文脈がCRを除外するのか,また,どのような用法の読みを生み出すのかをあらかじめ予測するのが難しい。

○ スウェー語

- ・基本的にはCRを表すとされているが,本発表のCRの定義では,CRを表さない場合もある。
- ・TS・PS・「他」のいずれなのか不明な例も見られた。

○ 日本語とハン語

- ・CRのある例が見られたが,ほとんどの例はCRではなく,過去に設定されている出来事(単純過去)を表していた。
- ・表4の基準2と基準3が重要であった。文の時間設定はSTに近い方がCRを表しやすかった。副詞,または文脈は明示的に時間を過去に設定しない場合は,STとの関連性が高くなり,CRと分類されることが多かった。
- ・CRがある文では,特に先行文脈がないものが多かった。また,後続文脈に現在形,または未来形が出現することが多かったため,過去の出来事が発生したということが発話時点で今後の行為に影響を与えることが分かった。

○ 3言語とも結果性が高い動詞の方がCRを表しやすかった。ただし,スウェー語はTSよりPSの方が多かったのに対し,日本語とハン語はTSが最も多かった。

- ・結果性が高い動詞はスウェー語ではPSを表すことがあったが,日本語とハン語では必ずTSを表した。また,スウェー語は存続状態を表す例が見られたのに対し,ハン語は1件しか現れず,日本語は0件であった。
- 現在パーフェクト形を持たない言語の方が動詞のアスペクト的特徴に敏感なのか。TSを表しうる動詞は基本的にはTSを表すのか。
- タ形とハン語の過去形は存続状態を基本的には表さないと考えられる(McCawley 1971: 105, Comrie 1976:60)。

・3言語においてTSを表す例は時間副詞と共起しないことが多かったのに対し,PSを表す例は時間副詞と共起することがTSよりは多かった。この点から,TSの方が無標であり,現在パーフェクトの最も典型的な用法であると考えられる。

6. 結論

- ① 表4の判断基準は妥当であったが,どのような文脈がCRの解釈を引き起こすのかさらなる研究が必要である。
- ② 結果性が高い動詞の方がCRを表しやすかった。また,結果性が高い動詞しか表し得ないTSは無標であったため,結果性はCRに関連していると考えられる。
- ③ 日本語のタ形とハン語の過去形はCRを表しうるため,単なる過去形ではないが,基本的には単純過去形の機能を果たすことが多いと考えられる。結果性が高い動詞,また,副詞や文脈による文の時間設定は過去ではなくSTに近い方がCRを表しやすい。

参考文献

- Comrie, Bernard (1976). *Aspect: An Introduction to the Study of Verbal Aspect and Problems*. CUP. Cambridge.
- Dahl, Östen & Hedin, Eva (2000). Current relevance and event reference. In: (ed) Dahl, Östen (2000). *Tense and Aspect in the Languages of Europe*, Mouton de Gruyter, Berlin • New York, 385-402
- Declerck, Renaat (1991). *Tense in English*. Routledge, London
- 工藤 真由美 (1995). 『アスペクト・テンス体系とタクスト』 ひつじ書房
- McCawley, James D (1971). Tense and time reference in English. In: CJ Fillmore & D.T Langendoen, eds, *Studies in Linguistic Semantics*. New York: Holt, Rinehart & Winston.
- Parsons, Terence (1990). *Events in the semantics of English*. Cambridge MA: The MIT Press.